



学友支援 ニュース・レター 特別号 No.67

発行：金沢大学学友支援室

2015年11月27日

TEL：076-264-5081

mail：gakuyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

ホームページ：http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakuyu/index.html

第9回ホームカミングデイを開催しました



平成27年11月1日(日)、秋晴れの金沢大学角間キャンパスにて、第9回金沢大学ホームカミングデイが開催されました。

歓迎式典には176名、記念懇親交流会には159名の卒業生及びそのご家族等にご出席いただき、大変賑やかな一日になりました。



◆ 学長挨拶



▲挨拶を述べる山崎学長

歓迎式典は、金沢大学合唱団と参加者全員による校歌斉唱で始まりました。

続く金沢大学学長挨拶にて山崎光悦(やまざき こうえつ)学長は、本学の学生が備えるべき資質を示した「金沢大学<グローバル>スタンダード」に沿った国際化と教育の推進、「革新予防医科学共同大学院」「教職大学院」の二つの新大学院設置による、より高度な教育研究の実施と地域社会への貢献、国立大学の機能強化に応じた運営費交付金の重点配分

において、金沢大学は、世界と伍した教育研究を行う大学、を選択したことに言及し、更なる金沢大学の発展をお約束しました。

◆ 金沢大学の近況報告



▲金沢大学の近況を報告する向理事

向智里(むかい ちさと)理事(総括・改革・研究・財務担当)・副学長から、5つの重点戦略(①世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成、②金沢大学が世界に誇る研究拠点の形成、③徹底した国際化の推進による教育研究力の向上、④持続的社会的の実現に向けた教育研究成果の社会実装、⑤積極的なガバナンス政策)、新学術創成研究機構の設置、といった本学の最新の取り組みが紹介されました。

◆ 海外同窓会代表からのメッセージ

金沢大学では、平成24年度から本学への留学生による海外同窓会が設立され始め、現在4つの海外同窓会があります。今回は、



▲メッセージを述べる王会長(大学院自然科学研究科・平成5年)

昨年設立された金沢大学中国同窓会から、王安麟(おう あんりん)会長によるメッセージをいただきました。王会長は、中国同窓会の設立と現状、ご自身の日本留学経験、卒業後の歩みについて、中国工業界の状況と課題、留学中の恩師や学友への謝意とともに話されました。最後に、中国同窓会長として、自分の力で貢献すると力強く述べられました。

◆ 学友会会長祝辞

来賓を代表して祝辞を述べられた山出保(やまで たもつ)金沢大学学友会会長は、「学友会、同窓会は、一人として母校の発展を望まないものはない」として、「世界的な学者、専門家、アーティスト、リーダー」と言った方々を招き、学生



▲祝辞を述べる山出会長(法文学部・昭和29年)

に希望と夢を与えてほしい。また、学生諸先輩の築いてきた金沢大学の伝統にゆらぎのないよう、その発信力をさらに高めてくださるようお願いし、と激励の言葉を贈られました。

◆ 角間の里イメージソング「森に入ろう。」披露

歓迎式典の最後には、角間の里イメージソング「森に入ろう。」(作詞：江口 誠、作曲：甲斐正人)が、もりのみやこ少年少女合唱団による愛らしい声により歌い上げられました。「森に入ろう。」は、金沢大学や企業、県民・市民と連携した「森林の保全・整備」をはじめ、子供の頃から木に親しむ「木育(もくいく)運動」などをとおし、人と森との関わりを育てている、特定非営利活動法人「角間里山みらい」のイメージソングとして制作された合唱曲であり、金沢大学角間キャンパスを会場とする今回のホームカミングデイが初お披露目の場となりました。



▲歌を披露するもりのみやこ少年少女合唱団

◆ 記念講演



記念講演では、「事業改革 その失敗と成功の要諦」と題し、株式会社アーク代表取締役社長 鈴木康夫(すずき やすお)氏にご講演いただきました。

講演では、国内事業本部の活性化活動、海外合弁会社の事業再生、国内不振事業部の再生、国内不振関係会社の事業再生及び株式会社アーク社長としての事業再建の取り組みについて、ご自身の失敗経験と失敗から学んだことを軸に話されました。

国内事業本部の活性化活動と海外合弁会社の事業再生では、ミドル(中間管理職)の活用による組織活性化等で好転への目途が立ったものの、事業戦略やプロセス、収益が出るまでの時間軸等を他人に説明できるよう明確化していなかったため、国内ではご自身の異動により旧体制に戻った工場は間もなく閉鎖に、海外では投資家としてフィナンシャル面を重視し短期で事業評価するオーナーから時間的猶予と好転までの投資に対する了解が得られず、事業撤退が決定されました。

国内不振事業の再生では、2つのタスクフォースを担当し、複数事業部で構成する大きなタスクフォースチームでは意思の不一致、責任の希薄化により失敗に至りましたが、当該事業部のみで構成する小さなチームでは危機感を持って事業にあたり成功を収めました。

国内不振会社の再生では、7年連続赤字の会社へ赴き、猛省から始まる社員の意識改革、クリアな戦略と気骨の人事、経営トップの後押しにより組織を活性化させ、約半年後には黒字転換、わずか2年間でV字回復に導きました。

株式会社アークの事業改革では、行き過ぎた事業拡大により財政破綻した株アークを再生するため、事業の選択と集中、社員の帰属意識の醸成、個別最適ではなく全体最適の追及を行い、3年で事業再生ステージを脱却、現在は事業拡大の成長戦略に転換しました。

鈴木社長は、「手を打てば必ず芽が出る」と力強く話されました。



▲講演する鈴木康夫 株式会社アーク代表取締役社長(工学部・昭和45年)

◆ 第5回金沢大学学友会役員総会

第5回金沢大学学友会役員総会では、学友会役員の改選が行われ、次期学友会会長として、山出 保 氏の再任が承認されました。山出会長は、次期学友会役員等候補者の方々に、その職を委嘱する旨宣言し、次期役員等が決定しました。

山本 博(やまもと ひろし)学友会代表理事からは、学友会登録同窓会として「金沢大学中国同窓会」と「金沢大学体育同窓会」の2団体が新たに入会したこと、学位記授与式にて山出会長から祝辞を頂戴したこと、入学宣誓式にご列席いただいたことが報告されました。



▲第5回金沢大学学友会役員総会の様子

【学友会新役員 (平成27年11月5日～平成29年11月4日)】
会 長 山出 保 (法経文)

副 会 長 安宅 建樹 (法経文)、金浦 修郎 (教育)
中西 孝 (理)、中村 信一 (医)
角野 忠昭 (保健)、辻 彰 (薬)
小畑 外嗣 (工)

代表理事 山本 博 (金沢大学理事(同窓会担当)・副学長)

理 事 鳥越 伸博 (法経文)、澤野 等 (教育)
山本 政儀 (理)、大井 章史 (医)
松崎 太郎 (保健)、松下 良 (薬)
岩田 佳雄 (工)、喜田惣一郎 (四高)

監 事 徳野 光宏 (法経文)、岩田 靖夫 (教育)

◆ 記念懇親交流会

夕刻から開始された記念懇親交流会は、山出会長の発声による乾杯によりスタートしました。会場では、本学菓草園で採れたハーブを利用した薬膳パスタや、金沢大学生協オリジナル日本酒「角間の里」が振る舞われました。

途中、平成28年1月に設立予定の「金沢大学インドネシア同窓会」からAcep Purqon(アチェップ プルコン)代表が参加し、5つ目となる留学生による海外同窓会代表としての意気込みが述べられました。

その後、そろいの法被に身を包んだ同窓生有志による「金沢大学校歌」「北の都」「南下軍」の高唱があり、会は大いに盛り上がりました。



▲卒業生有志による校歌・寮歌の高唱



▲山本理事による開会の挨拶



▲アチェップ・プルコン代表(大学院自然科学研究科・平成20年)

- 大学が業者に名簿作成を依頼することはありません。電話等による勧誘には十分ご注意ください。
- 地域・職域・サークル・寮等の同窓会活動の近況や総会・懇親会等の開催日程、開催報告等を「学友支援ニュース・レター」に掲載ご希望の場合は、学友支援室までご連絡ください。